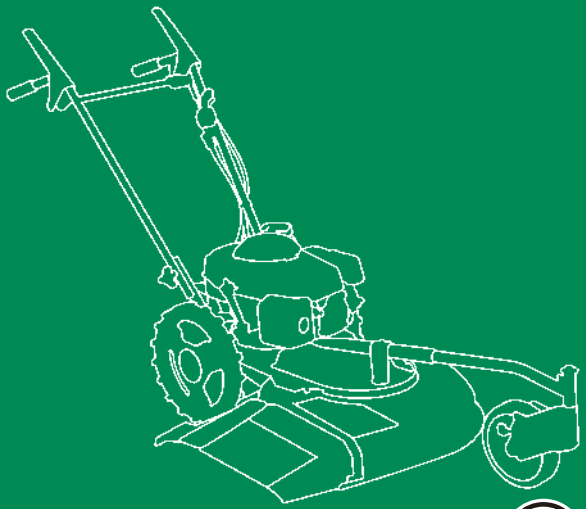
HONDA
汎 用 製 品

# 草刈機

# UM2160・UM2460

# 取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申し付けください。

---

**取扱説明書について**

この取扱説明書は

— 草刈り作業をするときは、必ず携帯してください。

— 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

— 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

# はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた草刈機で安全かつ能率的な草刈り作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

**安全に関する表示について**

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

**⚠危険**
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

**⚠警告**
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

**⚠注意**
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

**その他の指示**

**取扱いのポイント**
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。
本書はUM2460を中心にまとめてあります。

# 目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4
安全ラベル …… 7
サービスと保証について …… 9
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 10
エンジン回転調整レバー …… 12
刈刃クラッチ　レバー …… 12
走行クラッチ　レバー …… 13
燃料コック　レバー …… 13
刈取り高さ調整レバー …… 14
車輪固定ピン …… 14
変速レバー …… 15
ブレーキ　レバー（UM2460ブレーキ仕様） …… 15
作業前に点検、調整しましょう …… 16
作業前の点検 …… 16
燃料の点検 …… 17
エンジンオイルの点検 …… 19
エア　クリーナ（空気清浄器）の点検 …… 21
刈刃の点検 …… 22
リヤ　プロテクタ　ラバー、サイド　ラバーの点検 …… 24
各部の清掃 …… 25
エンジンのかけかたととめかた …… 26
エンジンのかけかた …… 26
エンジンのとめかた …… 28
運転操作のしかた …… 30
1．エンジン始動 …… 30
2．運転操作（UM2160） …… 30
運転操作（UM2460） …… 33
3．刈取り作業 …… 36
草刈機のとめかた …… 42

定期手点検を行いましょう……44
　定期点検表……44
点検・整備のしかた……45
　エンジン　オイルの交換……45
　エア　クリーナ（空気清浄器）の清掃・交換……47
　点火プラグの点検・調整・交換……48
　刈刃クラッチ　ケーブルの点検・調整……50
　走行クラッチ　ケーブルの点検・調整（UM2160）……52
　変速レバー　ケーブルの点検・調整（UM2460）……53
　ブレーキ　レバーの点検・調整（UM2460ブレーキ仕様）……54
長期間使用しないときの手入れ……56
車への積み降ろしのしかた……58
故障のときは……60
主要諸元……61

## ⚠警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

### ●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは誰にも本機を使用させないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な操作状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- 燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して給油限界レベルを超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

⚠警告

- 防護装置（サイド　ラバー、リヤ　プロテクタ　ラバー、ベルトカバー）は正しく取付けられているか確認してから作業してください。
- 衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないよう作業に適した服装をし、防護メガネ、手袋、ひざ下まである長靴などを用いて作業してください。
- 夜間や悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
- 放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなどすべての異物を取除いてください。
- 本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。点検は必ず厚手の手袋を着用してください。
- 本機は草刈り以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 草が濡れていたり、雨天のときは草刈り作業をしないでください。転倒の危険が増します。

## ●作業中

- エンジンが始動しているときは、手や足を刈刃カバーの上におかないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤って接触すると大ケガをします。
- 草刈り作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。人身および物損事故が起きないよう作業時には十分注意してください。特に左前方から右方向へ180°の範囲内は注意してください。
- 作業範囲内に人や動物、車などを近づけないでください。もし人や動物、車などが近づいたら作業を停止してください。また作業している周辺に人家や車などがある場合は、防護シートなどでおおってから作業を行ってください。
- 作業中はハンドルをしっかり持ち足元に注意して行ってください。刈取った草は滑りやすく転倒するおそれがあるので、走らず本機の速度に合わせて作業してください。

⚠警告

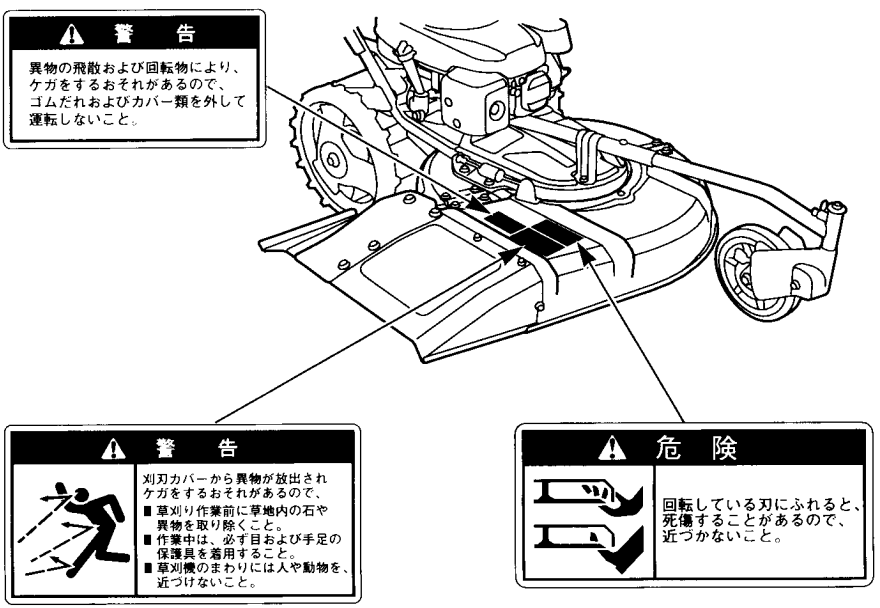
- 移動、方向転換するときは刈刃を停止させ、走行クラッチ　レバーのみ使用して行ってください。刈刃が回転していると異物などの飛び出しにより大ケガをするおそれがあります。
- 刈刃カバー内に刈取った草が詰まったときは、速やかに刈刃を停止させ、草の除去が安全に行える場所に本機を移動してください。移動後エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外し、厚手の手袋を着用して草の除去作業をしてください。
- 本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。
- エンジン運転中は刈取り高さの調整をしないでください。誤ってレバーを操作されると本機が動き出し大ケガをするおそれがあります。
- 作業中障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するため点火プラグ　キャップを外し（48頁参照）、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合、修理しないで再始動すると、損傷のある部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。
- 過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。

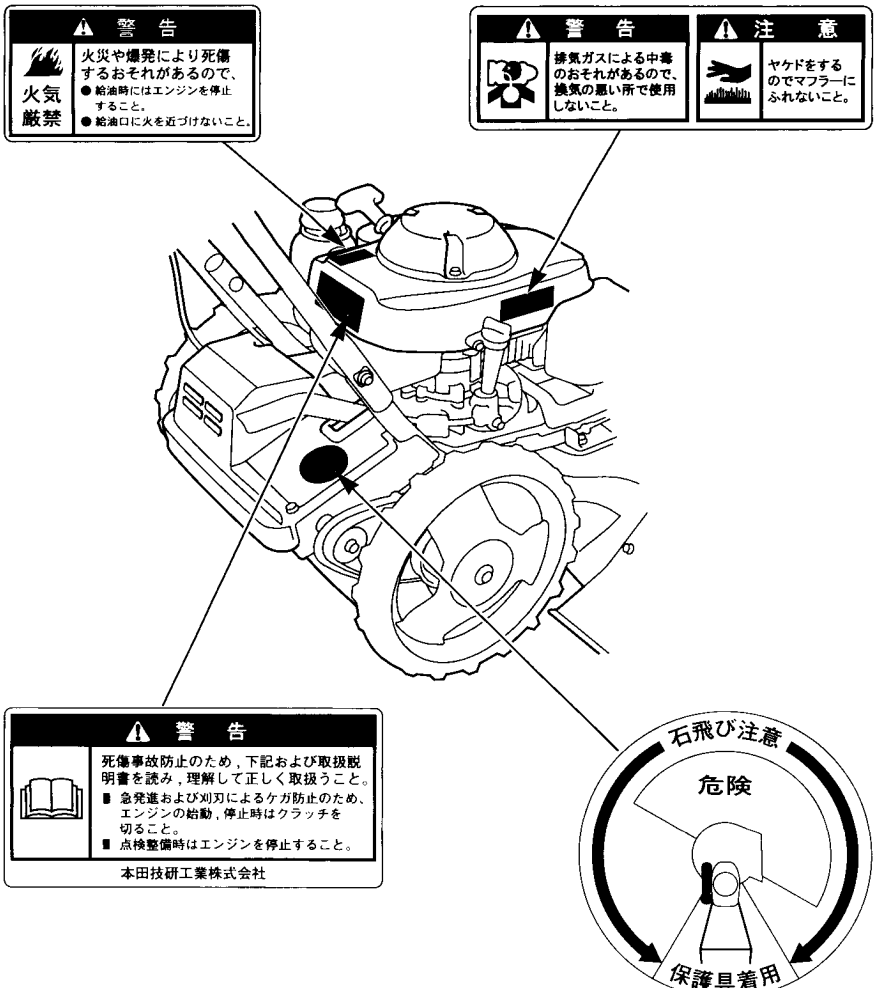
## ●作業が終わったら

- 作業が終わり、本機を移動する場合は刈刃を停止させ、刈取り高さの調整が行える安全な場所に移動し、エンジンを停止してから刈取り高さを最も高い位置にしてください。
- 各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分冷えてから行ってください。
- 長期保管前には、燃料タンク内の燃料を抜取り、本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく、火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- 車への積み降ろしをするときは、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒、落下によりケガをするおそれがあります。
- 運搬時には転倒や落下しないように本機を確実に固定してください。また燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。

## ●安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



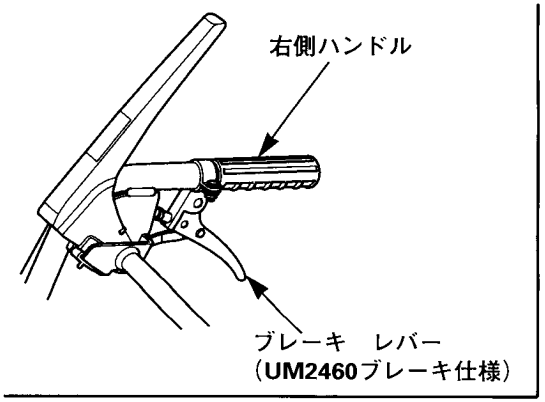

⚠ 警 告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
● 給油時にはエンジンを停止すること。
● 給油口に火を近づけないこと。
⚠ 警 告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
⚠ 注 意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
⚠ 警 告
死傷事故防止のため，下記および取扱説明書を読み，理解して正しく取扱うこと。
■ 急発進および刈刃によるケガ防止のため、エンジンの始動，停止時はクラッチを切ること。
■ 点検整備時はエンジンを停止すること。
本田技研工業株式会社
石飛び注意
危険
保護具着用

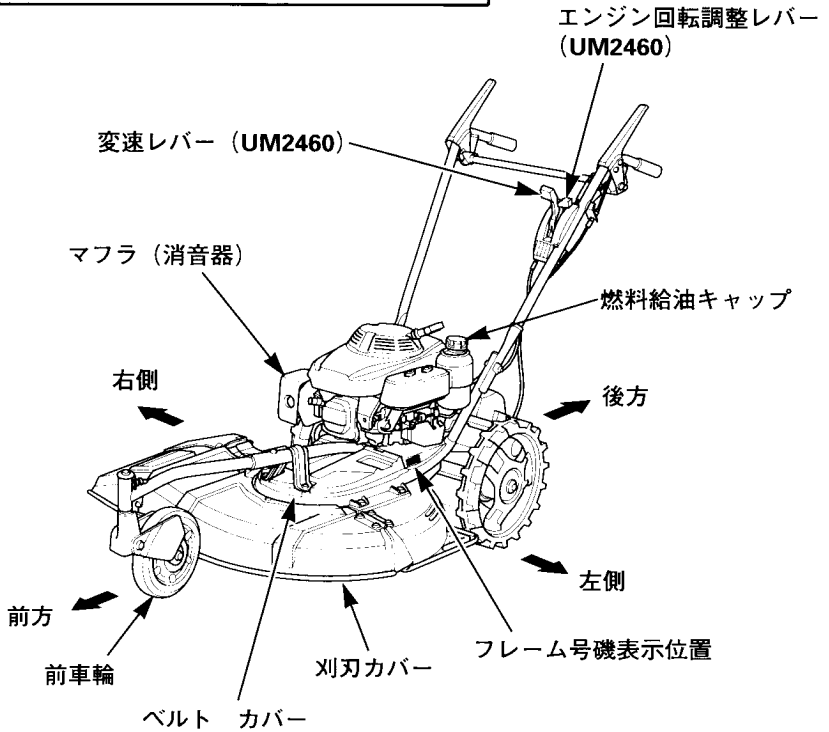
# サービスと保証について

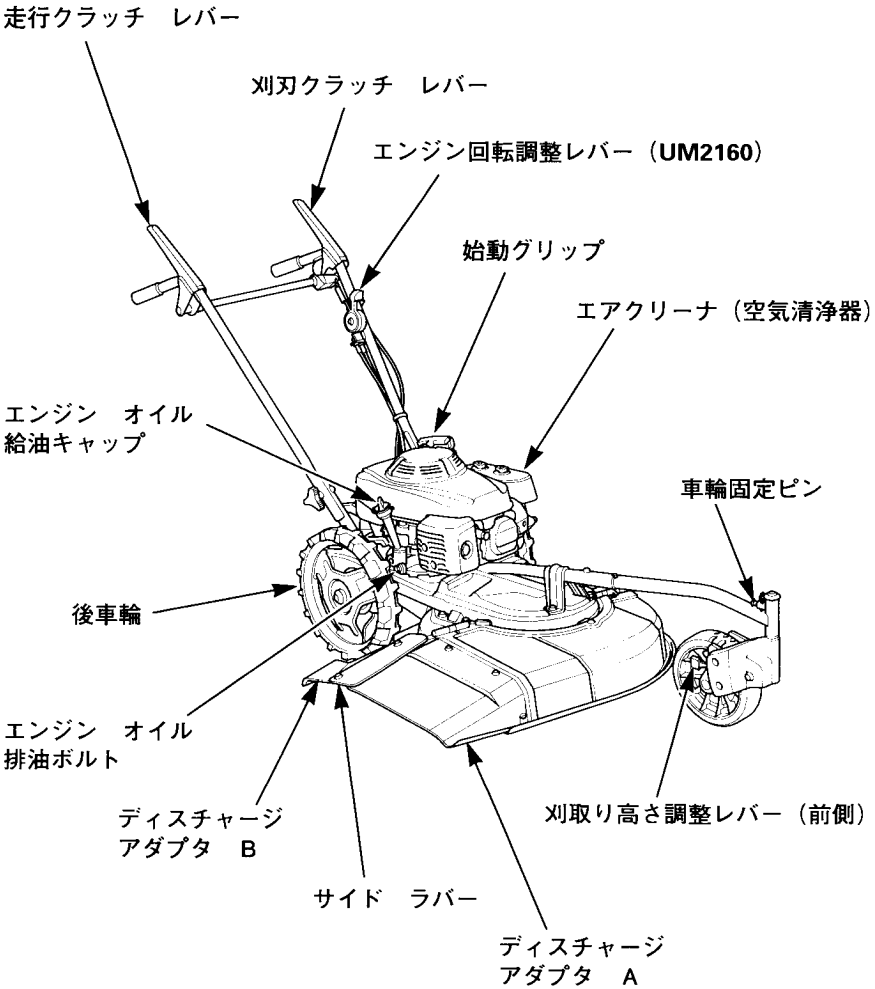
お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不審な点、またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は、商品名とフレーム号機（10頁参照）をご連絡くださるようお願いいたします。
Hondaが認めていない改造や仕様の限度を越える使用は、保証の対象外になるのでご注意ください。
（詳細は保証書をご覧ください。）

# 各部の名称と取扱いをおぼえましょう

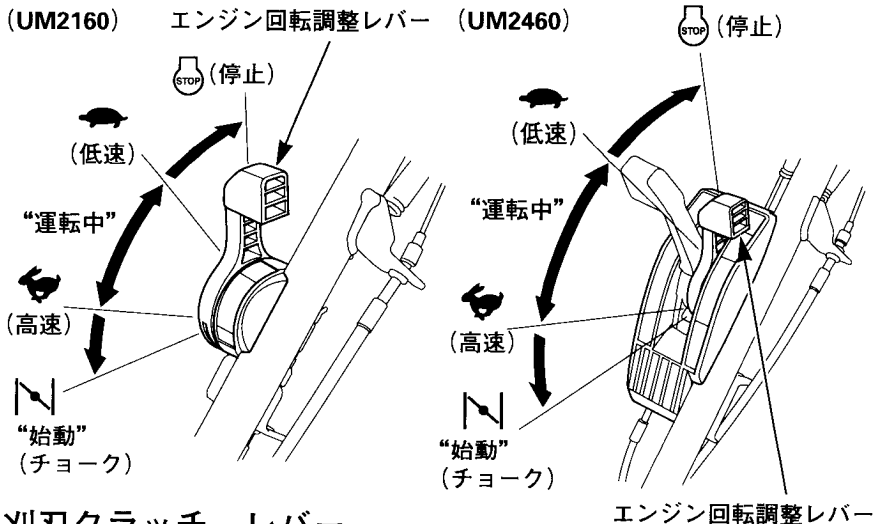



走行クラッチ　レバー
刈刃クラッチ　レバー
エンジン回転調整レバー（UM2160）
始動グリップ
エアクリーナ（空気清浄器）
エンジン　オイル
給油キャップ
車輪固定ピン
後車輪
エンジン　オイル
排油ボルト
ディスチャージ
アダプタ　B
サイド　ラバー
ディスチャージ
アダプタ　A
刈取り高さ調整レバー（前側）

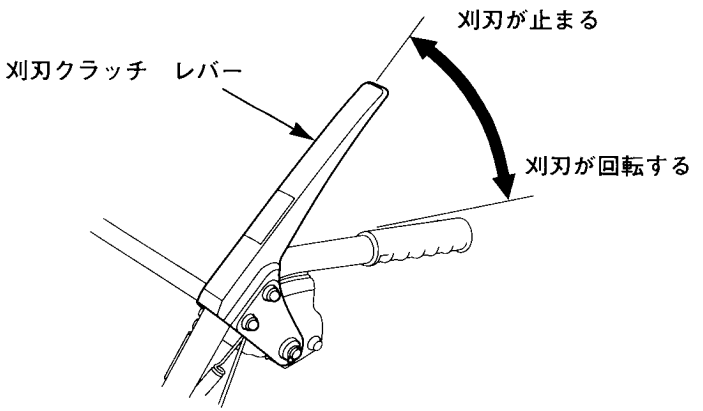
## エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。
エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



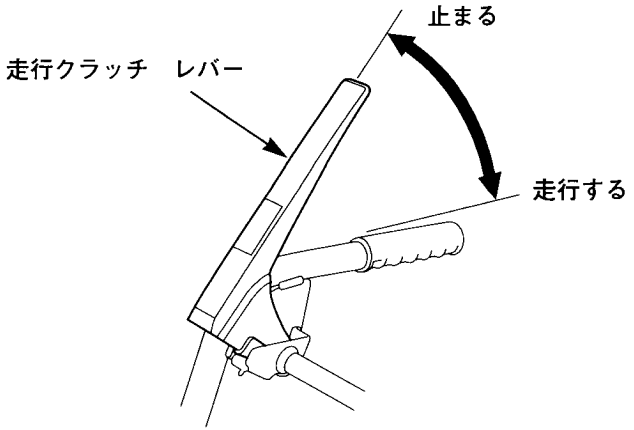

## 刈刃クラッチ　レバー

刈刃クラッチ　レバーを握ると刈刃が回転し、はなすと刈刃は止まります。



## 走行クラッチ　レバー

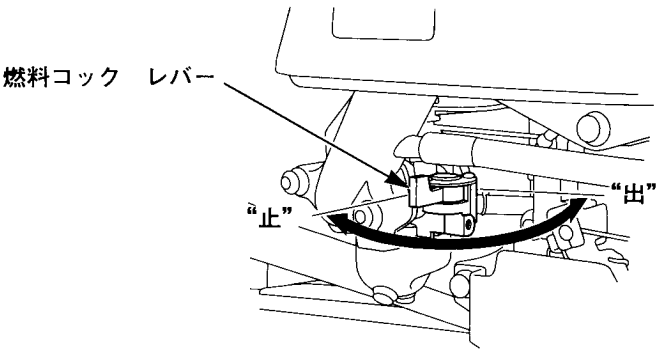
走行クラッチ　レバーを握ると走行し、レバーをはなすと止まります。




・刈刃クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーには、連動機構が装備されています。(35頁参照)

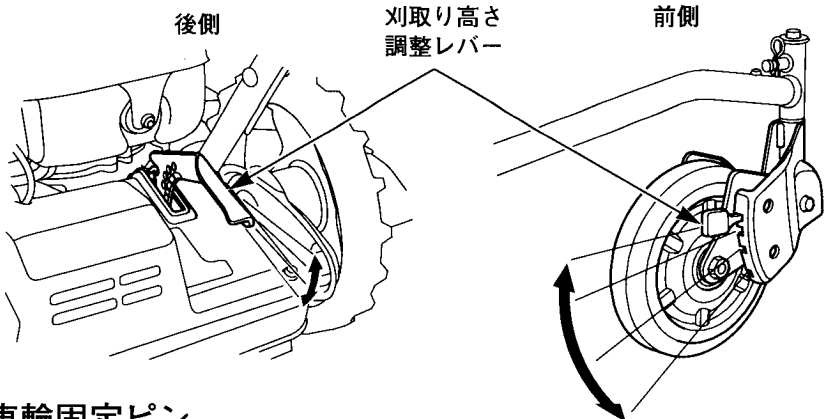
## 燃料コック　レバー

燃料タンクからキャブレータまでの燃料通路を開閉するときに操作します。操作は確実に**“出”、“止”**の位置に合わせてください。



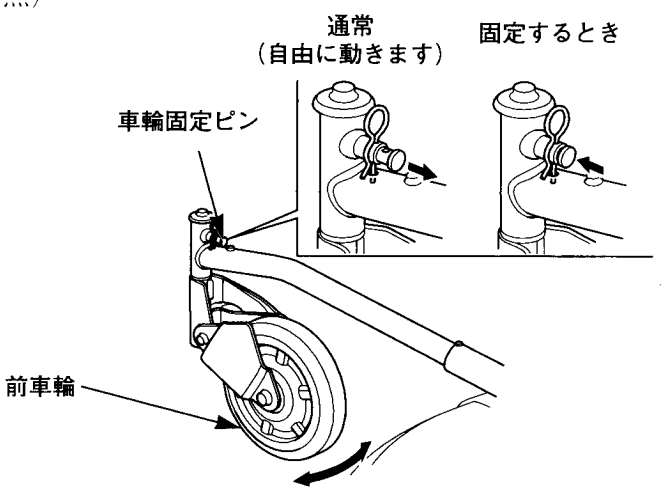
## 刈取り高さ調整レバー

刈取り高さを調整するときに操作します。
レバーを操作して位置を変えることによって前後4段階に刈取り高さを調整できます。(36頁参照)




## 車輪固定ピン

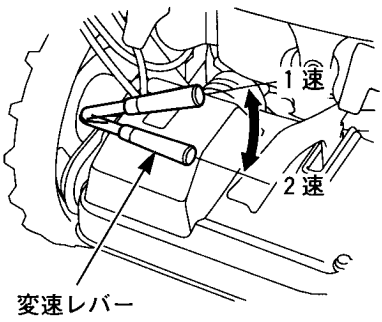
前車輪が左右に動かないように、固定するときに使用します。(38頁参照)



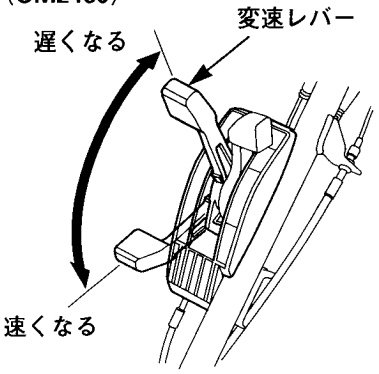
## 変速レバー

走行速度を変えるときに操作します。(UM2160は30頁、UM2460は34頁を参照)

(UM2160)

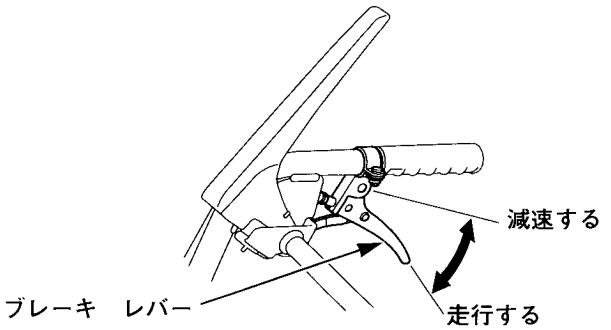



(UM2460)




## ブレーキ　レバー（UM2460ブレーキ仕様）

ブレーキ　レバーを握ると、ブレーキが作動します。
傾斜地で旋回するときや下り坂など自走速度よりスピードが速くなってしまう場合にブレーキ　レバーで速度を調整してください。
ブレーキ　レバーを握ると走行クラッチ　レバーが自動的に解除されます。再び走行するときは、走行クラッチ　レバーから手をはなし、レバーを握り直してください。



# 作業前に点検、調整しましょう

**⚠警告**

- 点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと本機を損傷するばかりでなくあなたや、あなたのまわりの人に大ケガをさせるおそれがあります。
- 点検整備や保管時に本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐために燃料コック　レバーを“止”の位置に合わせてください。漏れた燃料が引火することがあります。

## ●作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり ……燃料の量(17、18頁参照)、エンジン　オイルの量(19頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジンまわりにゴミ、枯れ草などはないですか。
- レバーの作動 ……レバーの遊び量（50～55頁参照）は規定どおりですか。
  引っかかりはなく、スムーズに作動しますか。
- 各部の締付け ……刈刃まわりにゆるみはないですか。
  そのほかのボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類 ……被覆のやぶれや切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止　エンジン始動時に異音はないですか。
  エンジン回転調整レバー“STOP”（停止）位置で確実に停止しますか。
- 刈刃の点検 ……刈刃の締付けボルトのゆるみ、刈刃の摩耗、曲がり、欠損はないですか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

## ●燃料の点検

**⚠警告**

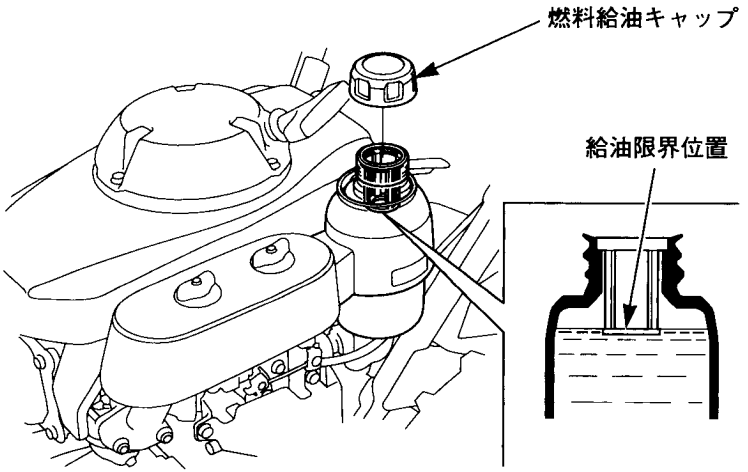
燃料は非常に引火しやすく、空た気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

燃料を補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化した燃料に引火しやけどを、負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料はこぼさないように補給してください。万一こばれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

**点検**

燃料給油キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）まで燃料があるか点検します。少ない場合は補給します。




**補給**

使用燃料：無鉛レギュラー　ガソリン

- 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル（給油限界位置）を超えないように燃料を補給します。レベルより上まで補給すると、燃料が漏れることがあります。
- 給油後、キャップを確実に締付けてください。

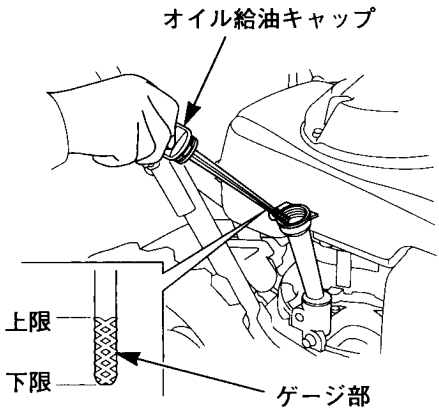
**取扱いのポイント**

・必ず無鉛レギュラー　ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
・ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

## ●エンジン オイルの点検

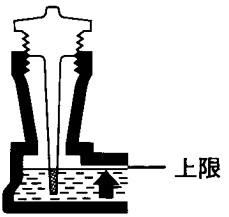
**点検**

オイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップのネジの部分が給油口にあたった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。
液面が下限を下まわっているときは、上限以内までオイルを補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は45頁参照)



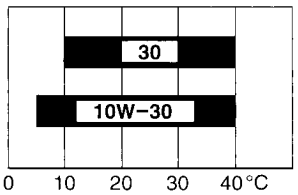
**補給**

- オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限以内まで補給します。




- 推奨オイル：（4サイクル ガソリン エンジン オイル）
  Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
  またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。




**取扱いのポイント**

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

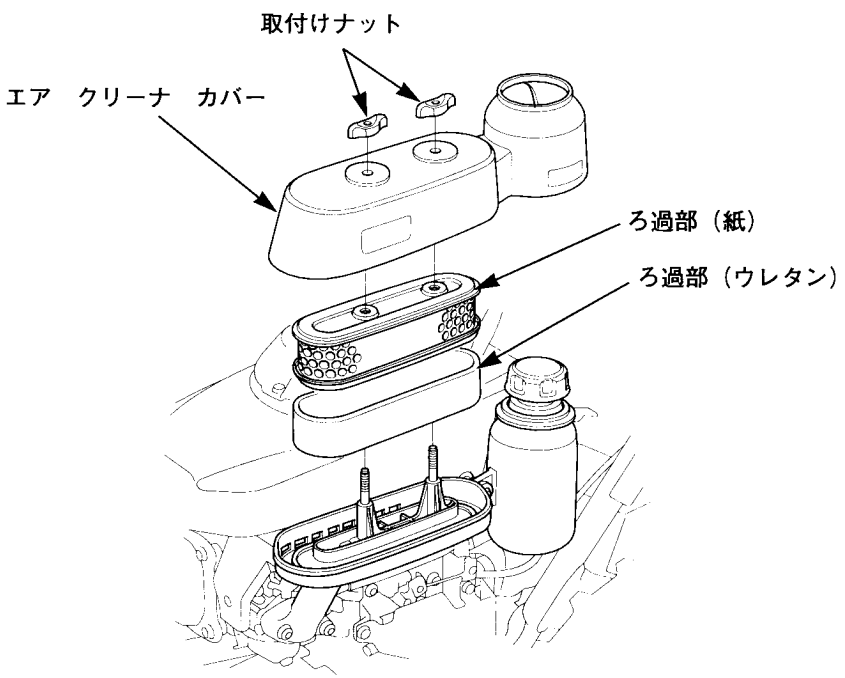
## ●エア　クリーナ（空気清浄器）の点検

**点検**

1．取付けナットを外し、エア　クリーナ　カバーを外します。
2．ろ過部（ウレタン、紙）の汚れを点検します。
3．汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(47頁参照)

**取扱いのポイント**

- エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付けかたが悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響を与える原因になります。



## ●刈刃の点検

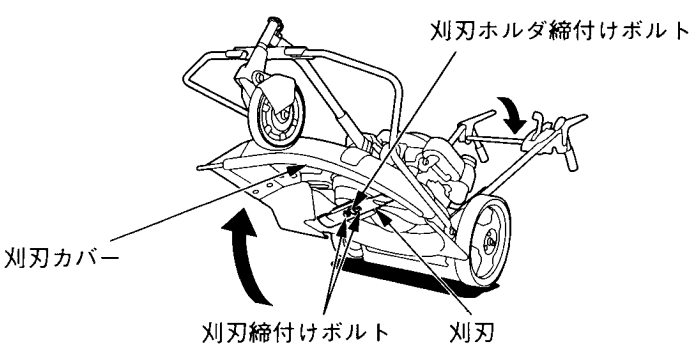
**⚠警告**

- 作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。
- 刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグ　キャップを外してから厚手の手袋を着用して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。
- 刈刃の点検は、一人で行わず必ず二人で行ってください。ハンドルをしっかり支えてもらい前部が落下しないようにしてください。前部が落下すると本機の下敷きになりケガをするおそれがあります。

1．エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを外します。
2．燃料コック　レバーを**“止”**にします。(43頁参照)
3．本機を後側へ傾斜させハンドルを地面に接地させた状態で刈刃カバー内を清掃し、刈刃を点検してください。

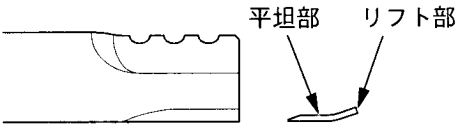
**取扱いのポイント**

傾斜させたまま放置しないでください。始動性が悪くなることがあります。



4．刈刃の締付けを確認してください。
5．刈刃の割れ、欠損、曲がり、摩耗を点検します。

新品




下図のように異常な状態になっていたらお買いあげ販売店で交換してください。

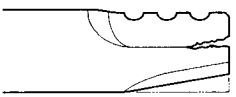
交換

割れ

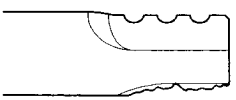



⚠ 警告

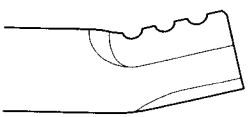
**特にリフト部に割れが発生すると、刃先が切損して飛び出すおそれがあるので使用しないでください。**



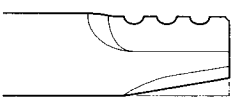
欠損



曲がり



摩耗



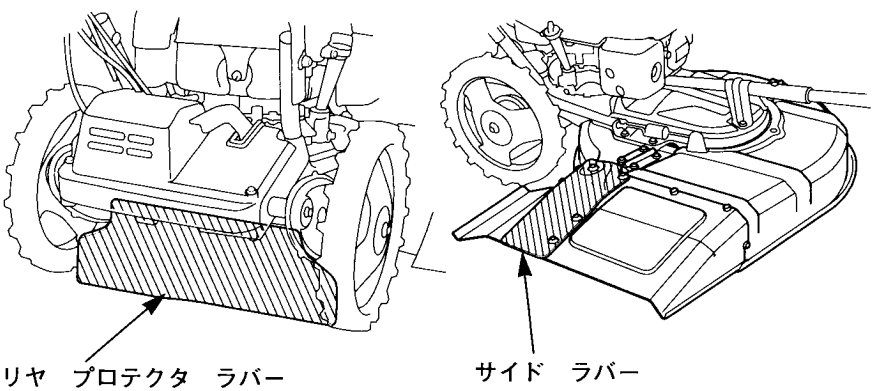
・乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刈刃の摩耗が早いため、頻繁に点検してください。

## ●リヤ　プロテクタ　ラバー、サイド　ラバーの点検

ラバーに損傷（深い傷や欠けなど）がなく正しく取付けられているかどうか点検してください。
損傷しているときには交換してください。

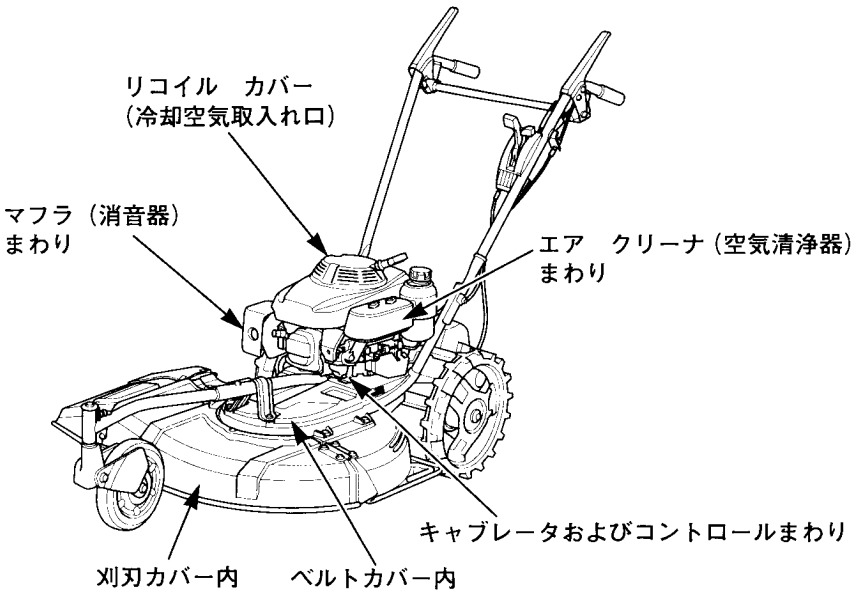
**⚠警告**

プロテクタ類を取外したままで刈取り作業しないでください。また損傷したままでの作業もしないでください。刈刃の回転力により石飛びなどが発生し重大な事故を起こすおそれがあります。



## ●各部の清掃

本機（特に下記指定箇所）に刈った草やホコリが付着していないか確認し、汚れているときには十分清掃してください。




**取扱いのポイント**

清掃をするときキャブレータ、エア　クリーナ、マフラ排気口に水をかけないでください。エンジン不調の原因となります。

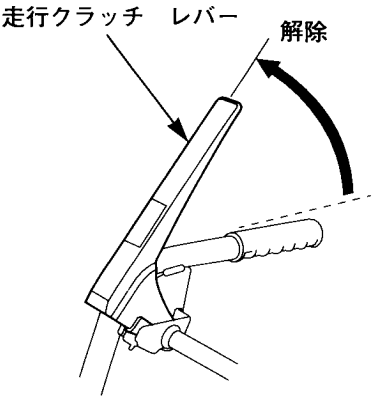
# エンジンのかけかたととめかた

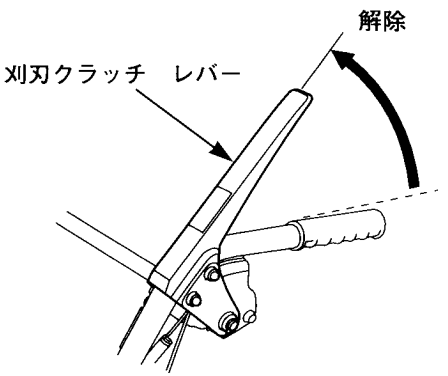
**⚠警告**

屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

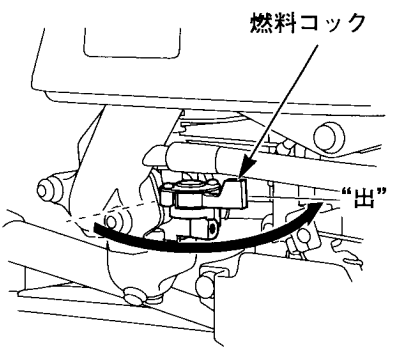
## ●エンジンのかけかた

1．走行クラッチ　レバーと刈刃クラッチ　レバーから手をはなし、解除されていることを確認してください。

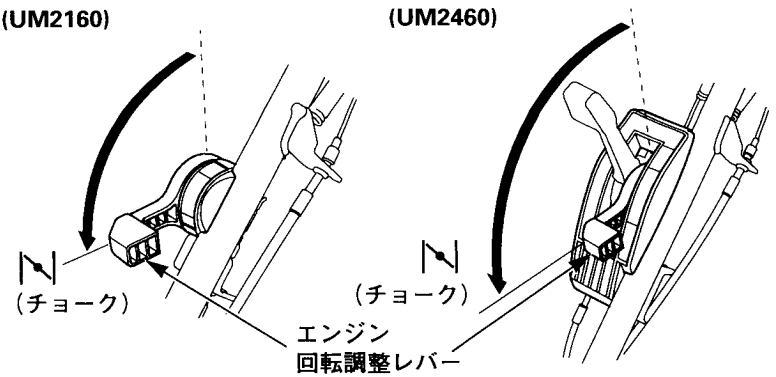


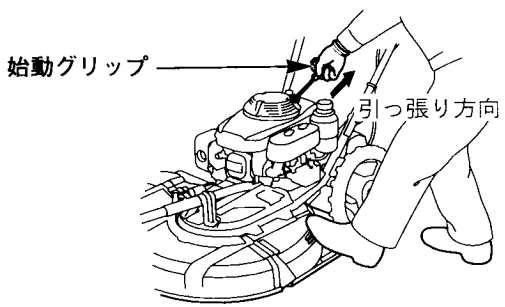

2．燃料コック　レバーを**“出”**に合わせます。



3．エンジン回転調整レバーを“⌐”（チョーク）の位置に合わせます。
エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときには“🐇”（高速）の位置に合わせます。




5. 始動グリップを引き重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。
・エンジンの始動は、本機が安定する平坦な場所で行ってください。
・始動グリップを引くとき、後方に人がいないか確認してください。

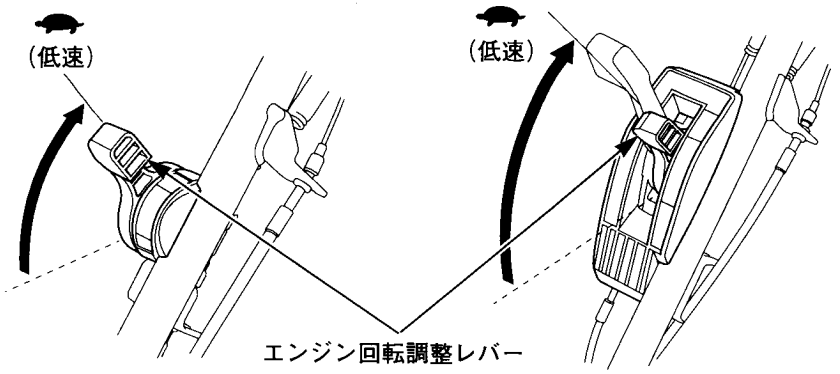



**取扱いのポイント**

始動グリップを引き上げた位置から手をはなさないでください。グリップや周りの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

5．２～３分間暖機運転を行います。
“ ”（チョーク）の位置で始動したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら“ ”（低速）の位置に合わせます。

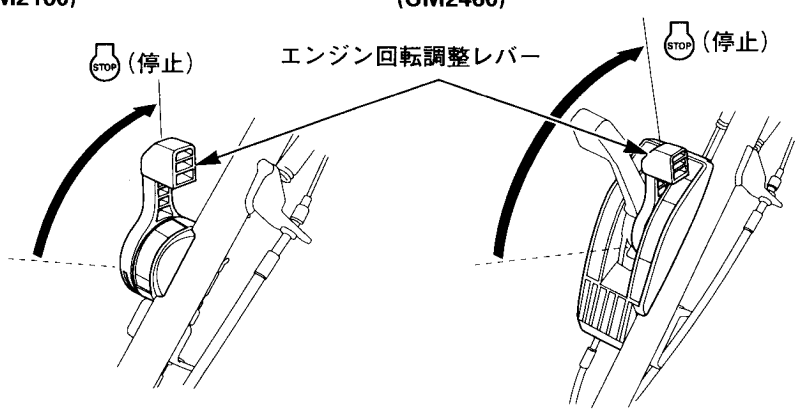
(UM2160)　　(UM2460)



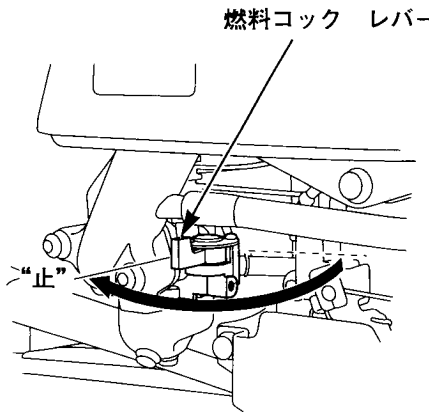

## ●エンジンのとめかた

1．走行クラッチ　レバー、刈刃クラッチ　レバーを解除し、エンジン回転調整レバーを“ ”（停止）にします。

(UM2160)　　(UM2460)



2．燃料コック　レバーを**“止”**にします。



# 運転操作のしかた

**草刈り作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目を良くお読みになり草刈り作業にとりかかってください。**

**取扱いのポイント**

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

## 1 エンジン始動

「エンジンのかけかた」に従ってエンジンを始動します。(26頁参照)
UM2460の運転操作は33頁を参照してください。

## 2 運転操作（UM2160）

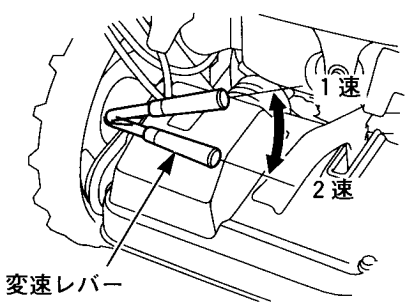
### 1．変速レバー

作業内容により1速または2速を選んでください。

| 変速位置 | 適応作業 |
|---|---|
| 1　速 | 草刈り(狭い場所、長い草など)･移動･トラックへ積み降ろし |
| 2　速 | 草刈り(平坦な広い場所)･移動 |

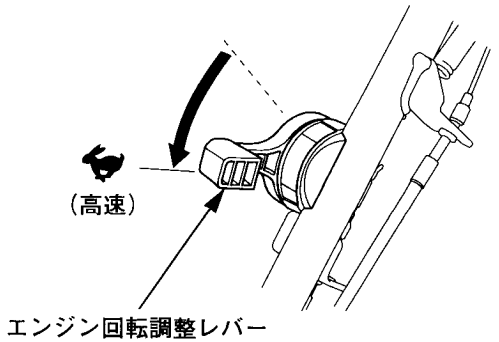
**取扱いのポイント**

走行中は変速しないでください。必ず走行クラッチ レバーを“止”にしてから操作してください。走行中に変速したり足で操作すると変速しなかったり故障の原因ににることがあるので絶対行わないでください。



## 2．エンジン回転調整レバー

エンジン回転調整レバーを“🐇”（高速）にします。

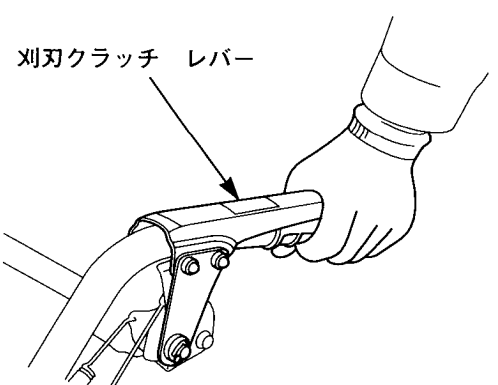



**⚠注意**

急発進による事故や、刈刃によるケガなどを防ぐため、周囲の安全に十分注意してレバー操作を行ってください。

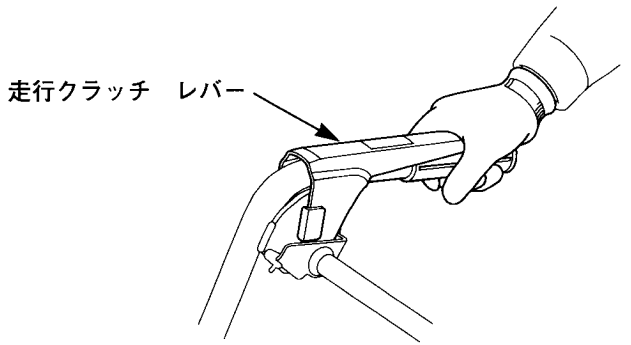
## 3．刈刃クラッチ　レバー

刈刃クラッチ　レバーを握り刈刃を回転させます。



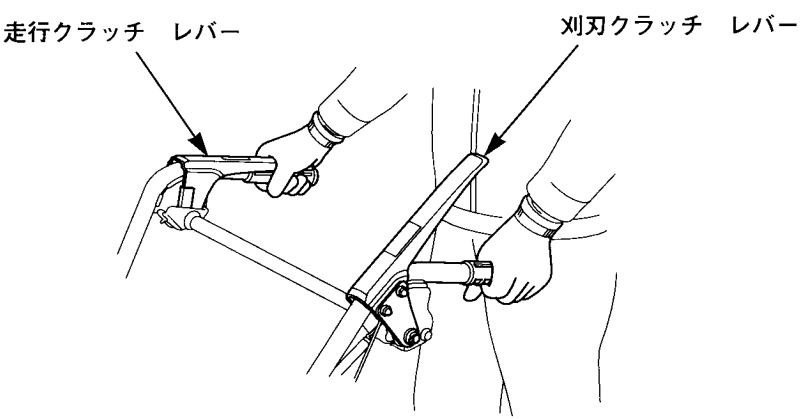
### 4．走行クラッチ　レバー

走行クラッチ　レバーを握ります。




### 刈刃クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーの連動手順（35頁参照）

・刈取り作業のときは、刈刃クラッチ　レバーを先に操作してください。
・移動のときは、走行クラッチ　レバーのみ操作してください。



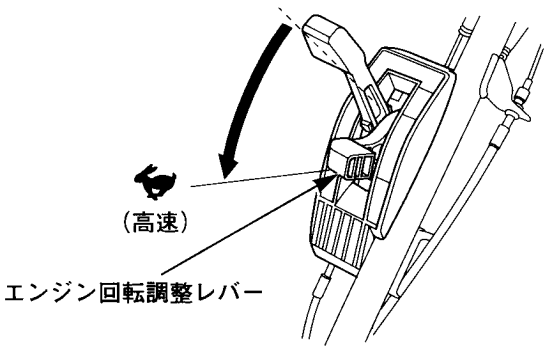
## 2 運転操作（UM2460）

**⚠注意**

急発進による事故や、刈刃によるケガなどを防ぐため、周囲の安全に十分注意してレバー操作を行ってください。

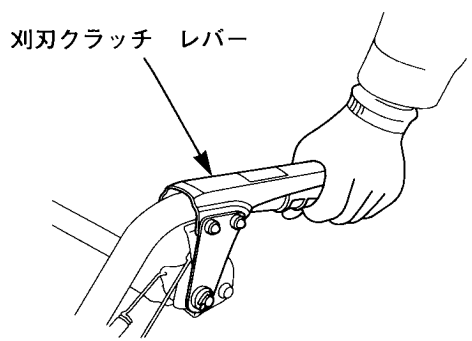
### 1．エンジン回転調整レバー

変速レバーが**“低”**（低速）の位置にあることを確認し、エンジン回転調整レバーを**“🐇”**（高速）にします。



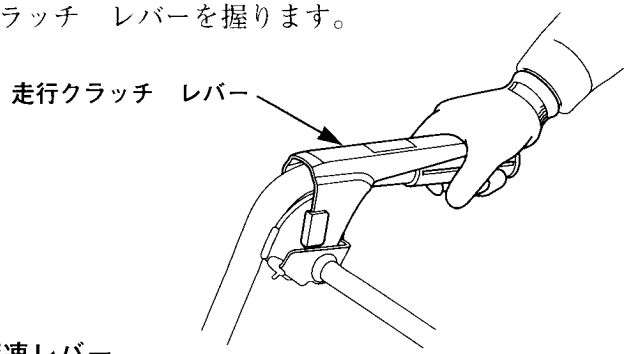

### 2．刈刃クラッチ　レバー

刈刃クラッチ　レバーを握り刈刃を回転させます。



### 3．走行クラッチ　レバー

走行クラッチ　レバーを握ります。



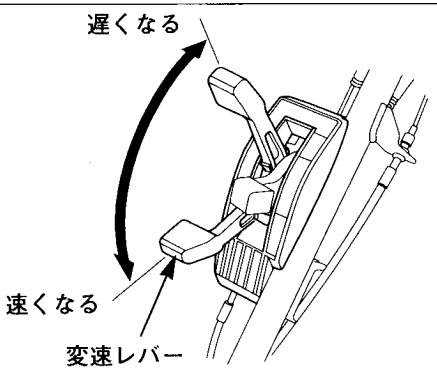

### 4．変速レバー

刈刃クラッチ　レバーから手を離し、作業内容に合わせて変速レバーを調整して車速を設定します。

| 変速位置 | 適応作業 |
|---|---|
| 遅く～ | 草刈り(狭い場所、長い草等)、移動、トラックへの積み降ろし |
| ～速く | 草刈り(平坦な広い場所)、移動 |

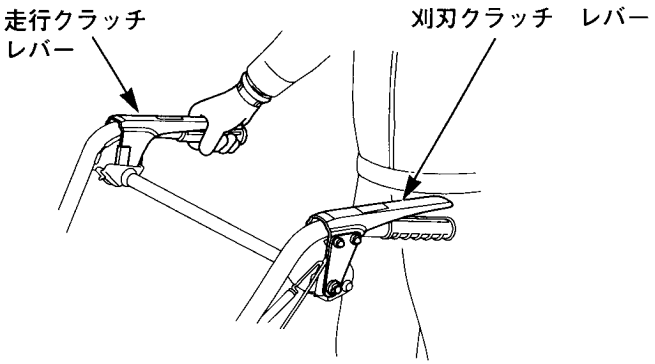
**取扱いのポイント**

走行中変速することができます。作業内容に合わせて変速レバーを調整してください。(刈刃クラッチ　レバーから手をはなしても走行クラッチ　レバーと連動しているため、作業を中断することなく車速の変速が行えます。)

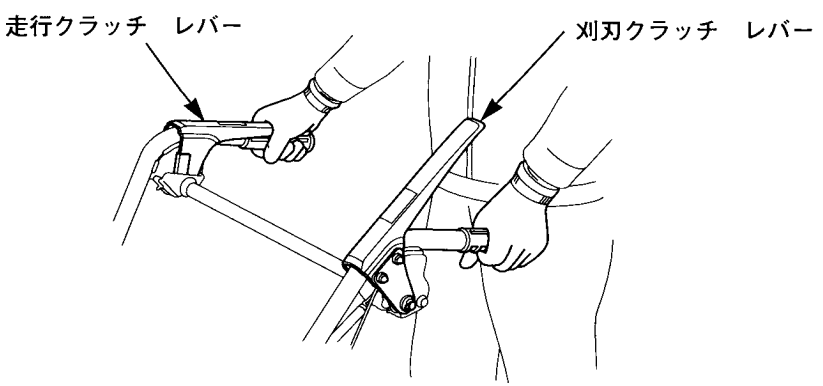


## 刈刃クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーの連動手順（UM2160、UM2460）

1．刈刃クラッチ　レバーを握りながら次に走行クラッチ　レバーを握ります。
2．刈刃クラッチ　レバーをはなしても、刈刃クラッチ　レバーは固定され。草刈りと走行ができます。この状態から走行クラッチ　レバーをはなせば、刈刃の回転が止り本機が停止します。




・刈取り作業のときは、刈刃クラッチ　レバーを先に操作してください。
・移動のときは、走行クラッチ　レバーのみ使用してください。



## 3 刈取り作業

### 1．刈取り高さの調整

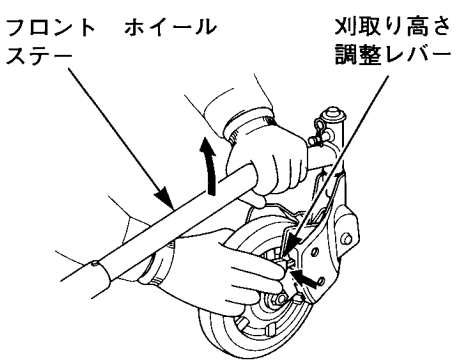
**⚠警告**

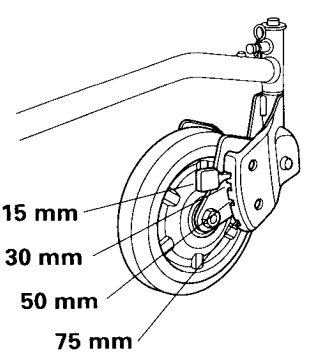
- 刈取り高さの調整をするときは、エンジンを停止し、各部の回転が止まっていることを確認してください。また誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを外し行ってください。
- 前側(前車輪)の調整はフロント　ホイール　ステーを持ち上げて行ってください。フロント　ホイール　ステーを持ち上げないで調整すると、本機の重みで下がりケガをするおそれがあります。

・刈取り高さ調整レバーにより4段階（15～75 mm）まで調整できます。1段－15 mm、2段－30 mm、3段－50 mm、4段－75 mm
・刈取り高さの調整は前側（前車輪）、後側とも同じ高さに調整してください。

**● 前側（前車輪）**

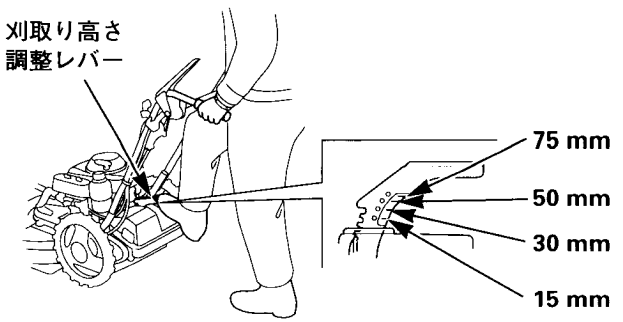
フロント　ホイール　ステーを片手で少し持ち上げてから刈りたい高さにレバーで調整してください。



● **後側**

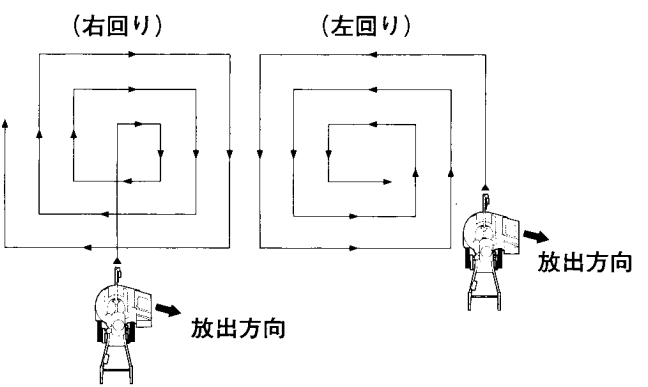
ハンドルを両手で支え、刈取り高さ調整レバーを踏み込み、ハンドルを上下に動かして高さを調整してください。




● 刈取り作業はエンジン回転を落とさず行うことが重要です。下記の要領を参考にして、草の種類、草地条件に適した刈りかたをしてください。

## 2．刈取りパターン

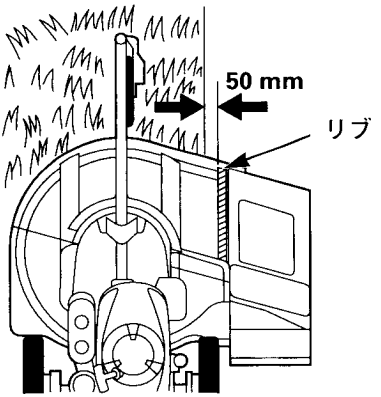
刈取った草の放出性をよりよくするため、次のような刈りかたをおすすめします。




・木の下、垣根のわきなどの草刈りは刈刃クラッチ　レバーのみを握り、手押し刈りを行います。

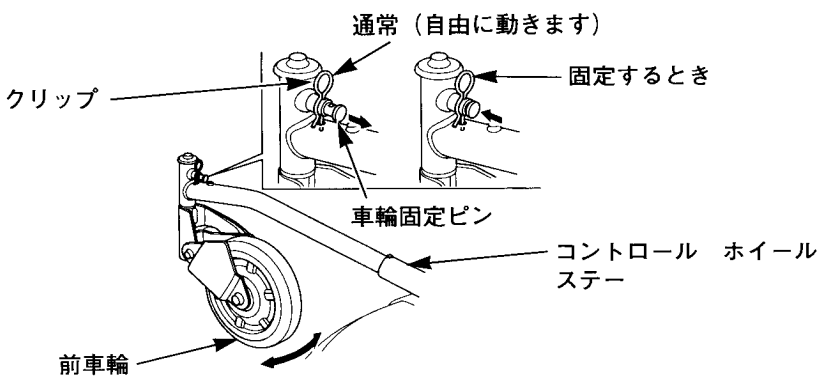
### 3．刈取りの目安

ハウジング右側のリブが刈刃幅になっています。
50 mmぐらいの内側を刈取り目安としてください。




### 4．斜面

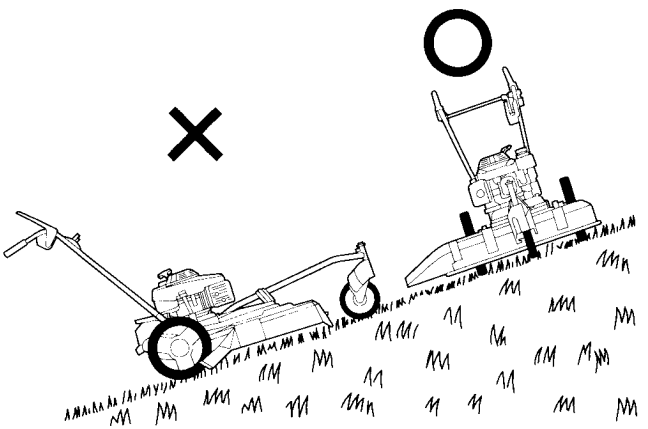
・斜面で使用するときは、前車輪が左右に動かないように車輪を固定して使用してください。
・固定するとき…前車輪をフロント　ホイール　ステー真下の位置にして、クリップを抜き車輪固定ピンを押込んでください。
ピンが入らないときは前車輪を左右に少し移動しながら入れてください。
クリップを確実に穴に入れてください。



・斜面での草刈りは上下方向ではなく、横方向（等高線方向）に行ってください。
・斜面上での方向転換は十分注意を払ってください。
・20°以上の斜面では草刈機を使用しないでください。
・斜面での草刈りは必ず1速で行うか（UM2160）、十分速度を落して行ってくだい（UM2460）。

**⚠警告**

● 斜面で本機を駐車させないでください。転倒や暴走により事故を引き起すおそれがあります。



## 5．起伏

起伏の多いところでの草刈りは十分に速度を落し、足もとに注意してハンドルをしっかりと握り作業してください。

**● 軟らかい密生した草などでエンジン回転が下がるときはには、次のいずれかの方法により作業を行ってください。**

・走行を停止し、エンジン回転の回復後、再度作業を行う。
・エンジン回転が低下しない車速で作業を行う。
・草の条件に応じて刈幅をせばめます
・刈取り高さを高くします。

**● つる草や異物（布、ロープ、針金など）の巻付きなどでエンジン回転が下がるときは、次の作業を行ってください。**

・直ちに走行を停止し、エンジンを止めてください。
・各部の回転が停止していることを確認し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを外します。
・後車輪に巻付いたつる草や異物を取除いてください。
・つる草や異物を取除いた後作業に入る前に、本機の損傷の有無を点検してください。異常があった場合はお買いあげ販売店にお申し付けください。

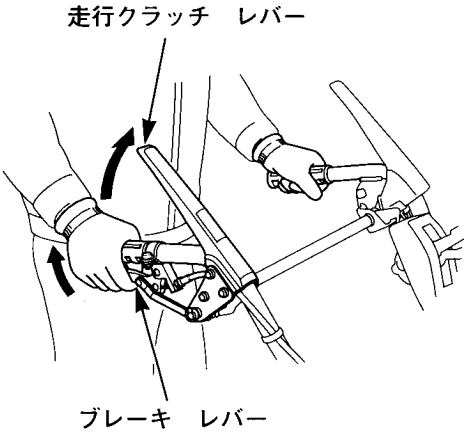
**取扱いのポイント**

つる草や異物が巻付いたまま走行を続けると、トランスミッションを破損する原因となります。

## 6．ブレーキの使い方（UM2460ブレーキ仕様）

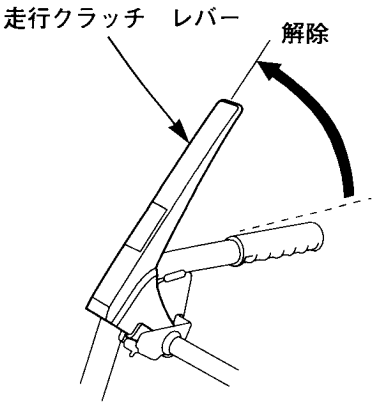
傾斜地で旋回するときや下り坂など自走速度によりスピードが速くなってしまう場合にブレーキ レバーで速度を調整してください。

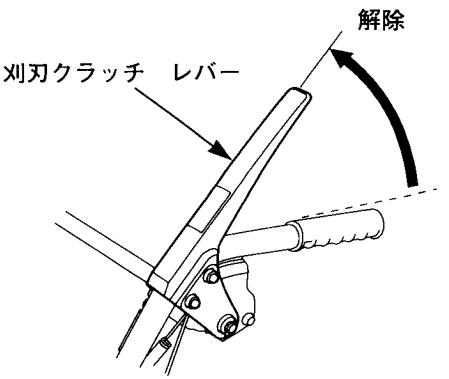
ブレーキ　レバーを握ると走行クラッチ　レバーが自動的に解除されます。再び走行するときはブレーキ　レバーから手を放し、走行クラッチ　レバーを握り直してください。



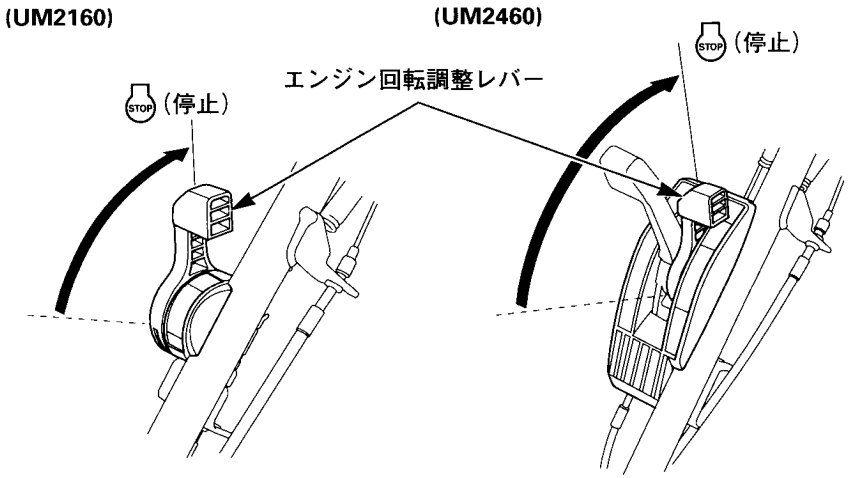
# 草刈機のとめかた

1．走行クラッチ レバーと刈刃クラッチ　レバーから手をはなします。走行および刈刃の回転が停止します。

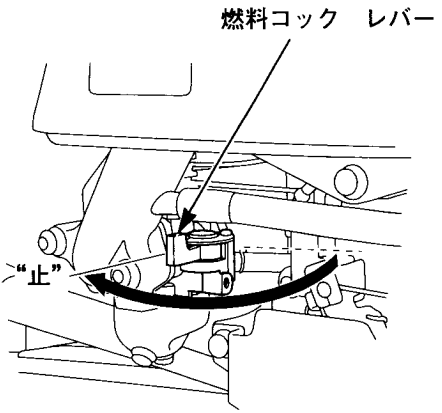



2．エンジン回転調整レバーを“STOP”（停止）にします。



3．燃料コック　レバーを“止”にします。



# 定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHonda草刈機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

## 定期点検表

| 点検整備項目 ＼ 点検時期（3） | | 作業前点検 | 初回20時間運転目 | 3ヶ月毎または50時間運転毎 | 6ヶ月毎または100時間運転毎 | 1年毎または200時間運転毎 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| エンジン　オイル | 点検・補給 | ○ | | | | |
| | 交換 | | ○ | | ○ | |
| エア　クリーナ | 点検 | ○ | | | | |
| | 清掃 | | | ○（1） | | |
| | 交換 | | | | | ○ |
| ・刈刃、ホルダ締付けボルト<br>・刈刃の状態 | 点検 | ○ | | | | |
| ・サイド　プロテクタ　ラバー<br>・リヤ　プロテクタ　ラバー | 点検 | ○ | | | | |
| 本機まわり各部 | 点検・清掃 | ○ | | | | |
| 刈刃ベルト | 点検・調整 | | | | ○（2） | |
| 刈刃クラッチ　ケーブル | 点検・調整 | | | | ○ | |
| エンジン回転調整ケーブル | 点検・調整 | | | | ○（2） | |
| 走行クラッチ　ケーブル（UM2160） | 点検・調整 | | | | ○ | |
| 変速レバー　ケーブル（UM2460） | 点検・調整 | | ○ | | ○ | |
| 点火プラグ | 点検・調整 | | | | ○ | |
| | 交換 | | | | | ○ |
| 吸入、排気弁すき間 | 点検・調整 | | | | | ○（2） |
| 燃料タンク、燃料ろ過網 | 清掃 | | | | | ○（2） |
| 燃料チューブ | 点検 | 2年毎（必要なら交換）（2） | | | | |
| ブレーキ　レバーの遊び | 点検、調整 | | ○ | | ○ | |
| 走行クラッチ　レバー　カムかみ合い | 点検・調整 | | | | ○（2） | |
| ブレーキ　ドラム　シューの摩耗 | 点検 | | | | | ○（2） |
| アイドル　スピード | 点検、調整 | | | | | ○（2） |
| 燃料栓 | 清掃 | 250時間運転後毎（2）（4） | | | | |
| トランスミッション　オイル（HST）（UM2460） | 点検 | | | | | ○（2） |
| | 交換 | 1000時間運転毎（2） | | | | |

（1）ほこりの多いところで作業した場合は、10時間運転毎または1日1回清掃してください。

（2）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

（3）点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

（4）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告

点検整備は平坦な場所でローリング レバーを"固定"の位置にして必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

## エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

**《交換時期》**

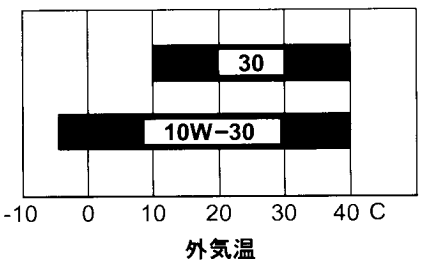
初回：20時間運転目、以後：6ヶ月毎または100時間運転毎。

**《推奨オイル》**（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。




**《規定量》**0.65 ℓ

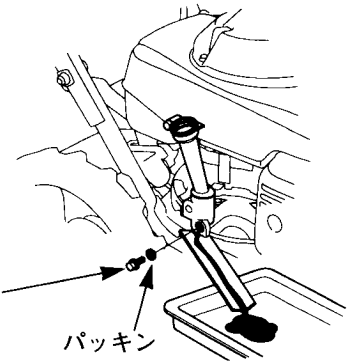
⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行なってください。やけどをするおそれがあります

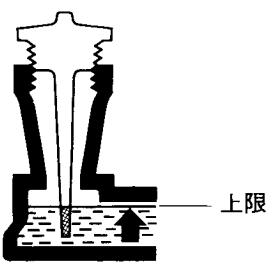
**《交換のしかた》**

1. オイル給油キャップを外します。

2．エンジン　オイル排油ボルトを外して、オイルを抜きます。
完全に抜けたらエンジン　オイル排油ボルトを確実に締付けてください。このときパッキンは新しい部品に交換してください。




3. エンジン　オイルをオイル給油キャップのゲージ部で確認しながら、上限以内まで注入します。（19 頁参照）




4．注入後、オイル給油キャップを手で確実に締付けます。

**取扱いのポイント**

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適性に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

## エア　クリーナ（空気清浄器）の清掃・交換

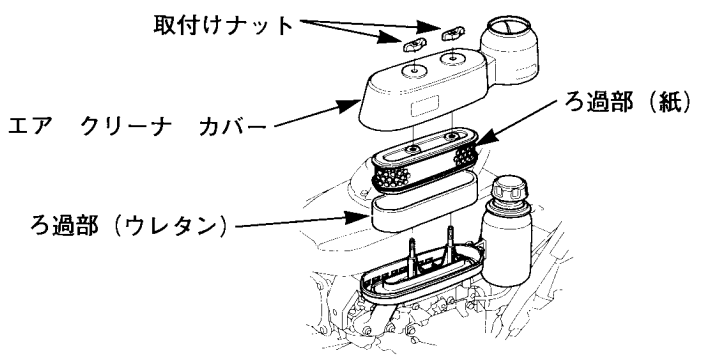
エア　クリーナが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなります。定期的に清掃しましょう。

**⚠警告**

エア　クリーナの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗い油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

《**清掃時期**》３ヶ月毎または50時間運転毎
　ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間運転毎
《**交換時期**》１年毎または200時間運転毎
《**清掃のしかた**》

1．取付けナットを外し、エア　クリーナ　カバーを外します。
2．ウレタンのろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、かたく絞ってください。
3．紙のろ紙部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4．清掃後、各部品を組付け、取付けナットを確実に締付けてください。エア　クリーナ　カバーの接続部にすき間、ズレがないことを確認してください。




**取扱いのポイント**

- エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部を装着しなかったり、取付けかたが悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

## 点火プラグの点検・調整・交換

**⚠注意**

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

**《点検・調整時期》**

6ヶ月毎または100時間運転毎

**《交換時期》**

1年毎または200時間運転毎

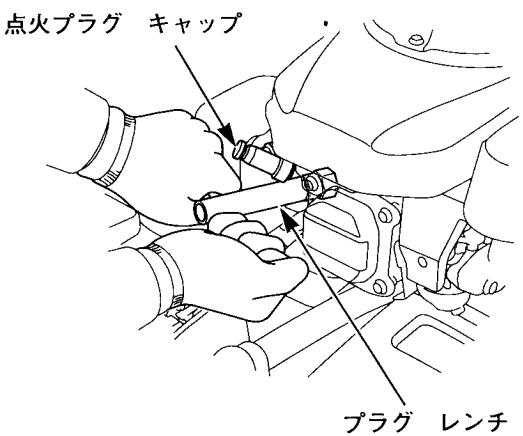
**《清掃のしかた》**

1．点火プラグ　キャップを外します。

2．プラグ　レンチで点火プラグを外し、清掃します。

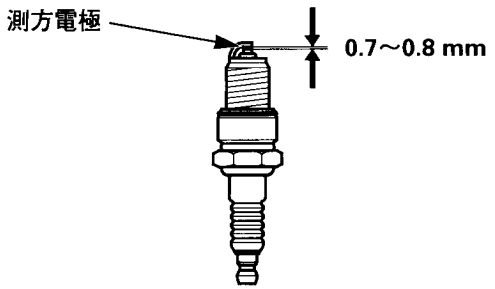
3．点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買い上げ販売店をご利用ください。

● プラグ　クリーナが無い時はワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。



《調整》

4．側方電極をつめ、火花すき間を0.7～0.8 mmに調整します。




《標準プラグ》

BPR5ES (NGK)

W16EPR-U (DENSO)

● 点火プラグを取付けた後、点火プラグ　キャプを確実に点火プラグに押し込んでください。

**取扱いのポイント**

● 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。点火プラグの取付けはネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締込んでください。

● 点検調整後は点火プラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

## 刈刃クラッチ　ケーブルの点検・調整

刈刃クラッチ　ケーブルの調整が完全でないと、ベルトがすべったり、刈刃が停止しなくなることがあります。

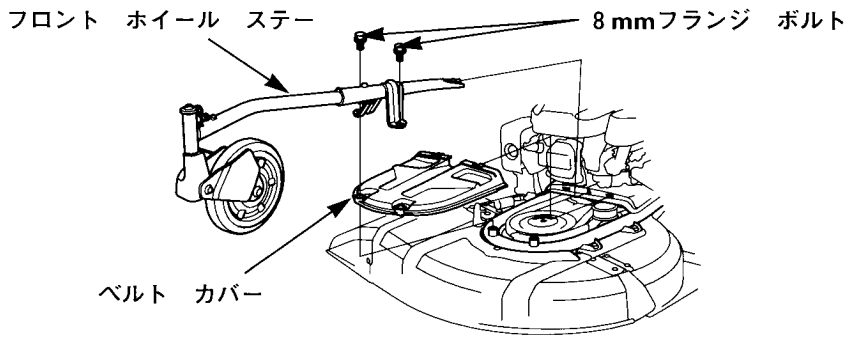
**《点検・調整時期》**

6ヶ月毎または100時間運転毎

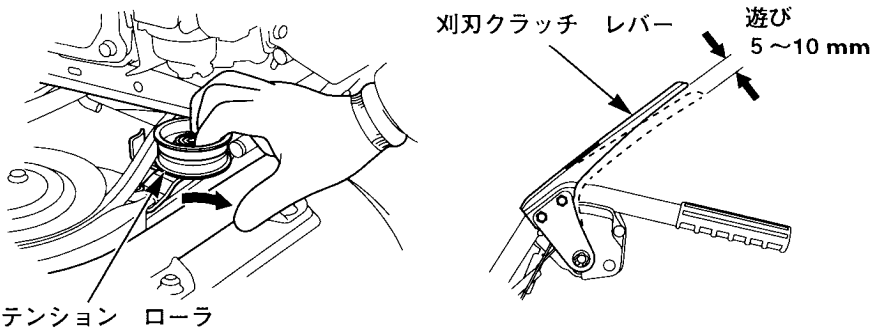
**《点検》**

刈刃クラッチ　レバー先端の遊びが5～10 mmになっていれば正常です。

1．2本の8 mmフランジ　ボルトを外し、フロント　ホイール　ステーとベルト　カバーを外します。



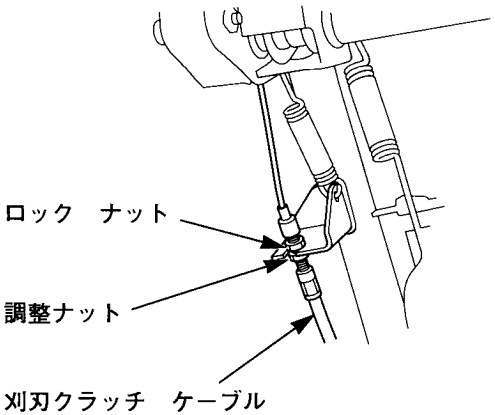

2．刈刃ベルトのテンション　ローラを矢印方向に引きながら刈刃クラッチ　レバーの遊びを点検します。



《調整》

1．ロック　ナットをゆるめ、調整ナットを回して規定寸法になるように調整してください。

2．調整後、調整ナットを固定しながらロック　ナットを確実に締付けます。



## 走行クラッチ　ケーブルの点検・調整（UM2160）

走行クラッチ　ケーブルの調整が完全でないと、クラッチが切れなくなったり、すべったりすることがります。

**《点検・調整時期》**

6ヶ月毎または100時間運転毎

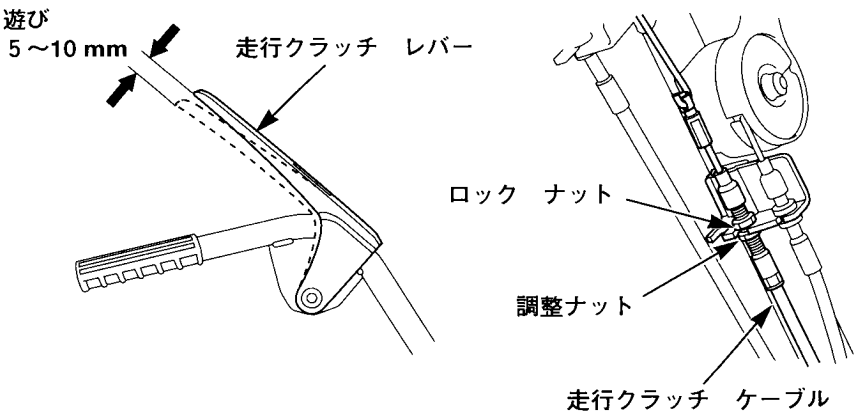
**《点検》**

走行クラッチ　レバー先端の遊びが5～10 mmになっていれば正常です。

**《調整》**

1．ロック　ナットをゆるめ、調整ナットをまわして規定寸法になるように調整してください。

2．調整後、調整ナットを固定しながらロック　ナットを確実に締付けます。



# 変速レバー　ケーブルの点検・調整（UM2460）

**《点検・調整時期》**

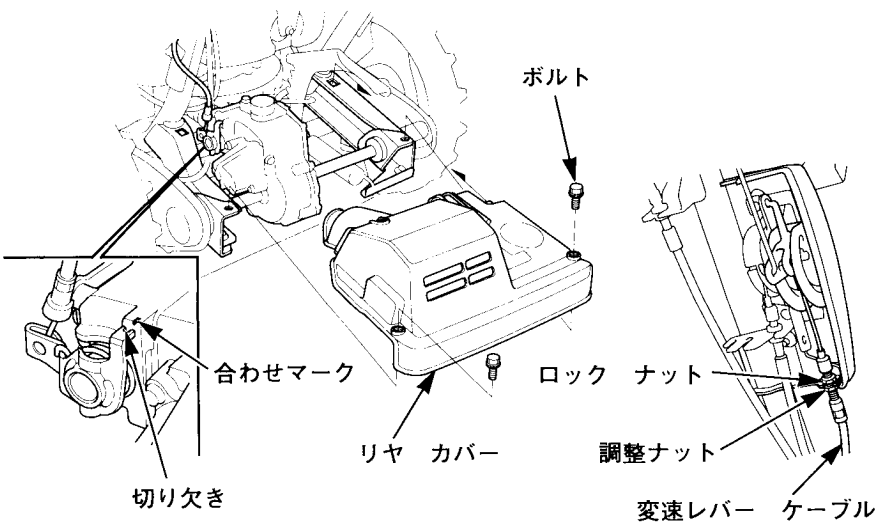
初回：20時間運転時、以降：６ヶ月毎または100時間運転毎

**《点検》**

無段変速機の合わせマークと調整アームの切り欠きが合っていれば正常です。

**《調整》**

1．ボルト２本を外し、リヤ　カバーを外します。
2．変速レバーをいっぱいに引き上げ最低速の位置にします。
3．走行クラッチ　レバーをいっぱいに握った状態で無段変速機の合わせマークと調整アームの切り欠きが合っているかを確認します。
4．調整はロック　ナットをゆるめ、調整ナットをまわして行います。
5．調整後、調整ナットを固定しながらロック　ナットを確実に締付けます。



## ブレーキ　レバーの点検・調整（UM2460ブレーキ仕様）

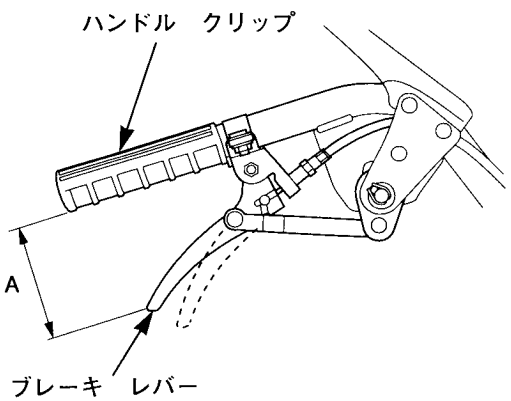
**《点検・調整時期》**

初回：20時間運転時、以降：６ヶ月毎または100時間運転毎

**《点検》**

平らな場所で右手でブレーキ　レバーを握りながら、左手でハンドルのクロス　レバーを後方へ水平に引きます。このとき前輪が浮かないように注意してください。ブレーキ　レバーを徐々に握り込みながら、後輪がロックし滑り出したときのレバー先端とハンドルグリップの距離Ａを測定します。

距離Ａが35 mm以下の場合、調整してください。

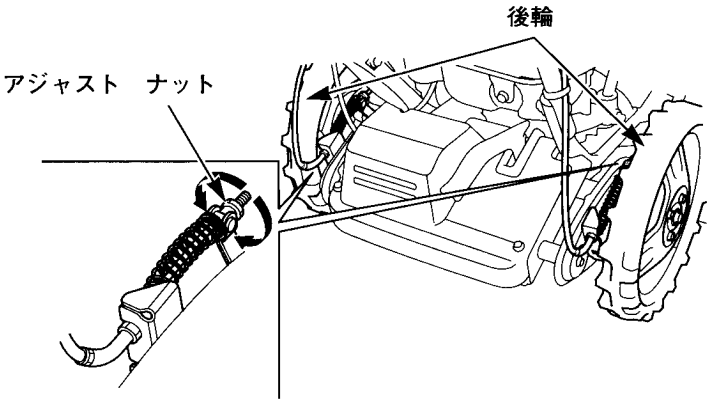


《調整》

1．左右のアジャスト　ナットを同一回転数回し、距離Aを50～60mmに調整します。

2．調整後、後輪を浮かし、手で軽く回し、ブレーキの引きずりがないことを確認します。

● 正しく調整できない場合、他の点検・調整が必要です。お買いあげ販売店にお申しつけください。



# 長期間使用しないときの手入れ

**長期間運転しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は次の手入れを行なってください。**

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ　キャップをプラグから取外します。

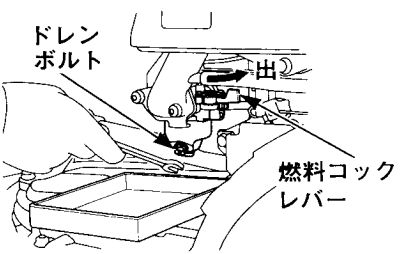
**⚠注意**

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行なってください。

**1 燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを抜いてください。**

**《抜きかた》**

1. 燃料給油キャップを取外し、タンク内のガソリンをポンプ等を使用して容器に受けてください。
2. キャブレータ内のガソリンは、燃料コック　レバーを**“出”**にしてドレン　ボルトをゆるめ、容器に受けてください。完全にガソリンが抜けたらドレン　ボルトを元の状態に戻し、燃料コック　レバーを、**“止”**にして、燃料給油キャップを確実に締付けてください。




**⚠警告**

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近付けないでください。
- 燃料はこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

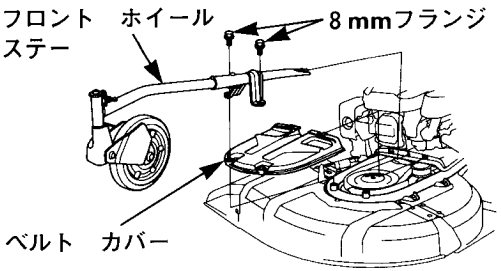
取扱いのポイント

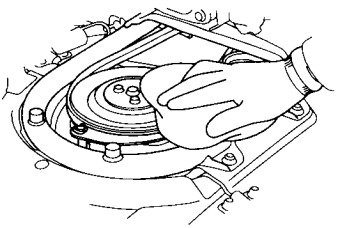
次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。

3 ベルト　カバー内部を清掃してください。

1．8mmフランジボルト2本を取外し、フロント　ホイール　ステーとベルト　カバー内部を清掃した後、確実にフロント　ホイール　ステーとベルト　カバーを取付けてください。

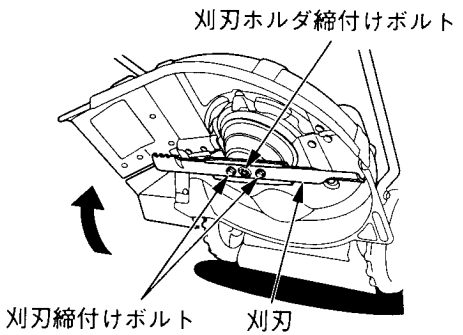
2．ベルト　カバー内部を清掃した後、確実にフロント　ホイール　ステーとベルト　カバーを取付けてください。



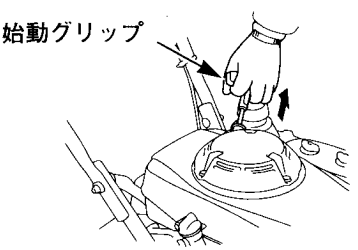



4 刈刃および各部を清掃し、締付け点検をしてください。
刈刃にエンジンオイルを塗布してください。

☆刈刃の点検は必ず二人で行ってください。(22頁参照)




5 片手でハンドルを支え始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。




6 屋根のある場所に保管してください。

# 車への積み降ろしのしかた

**⚠警告**

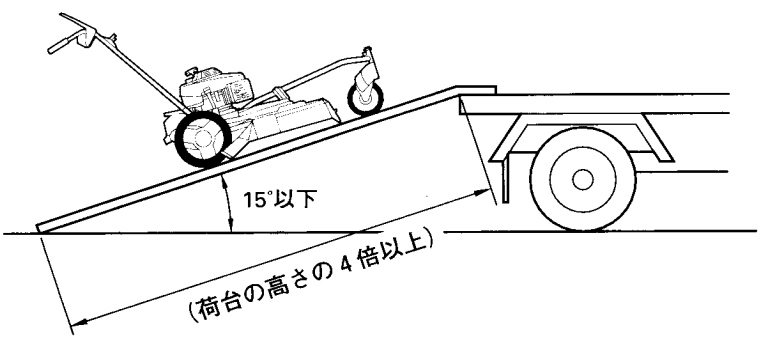
**車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用し、ゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。**

1．車への積み降ろしは平坦場所で、アユミ板を使用して行ってください

2．使用するアユミ板は、全装備重量＋作業者の体重に耐えられるもので、滑りどめ、はずれ防止フックがあり、タイヤ幅以上の幅がある物を使用してください。

**全装備重量： 63kg (UM2160)、71kg (UM2460)、**
**75kg (UM2460ブレーキ仕様)**

3．アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さの物を使用してください。(目安として荷台の高さの４倍以上の長さ。)



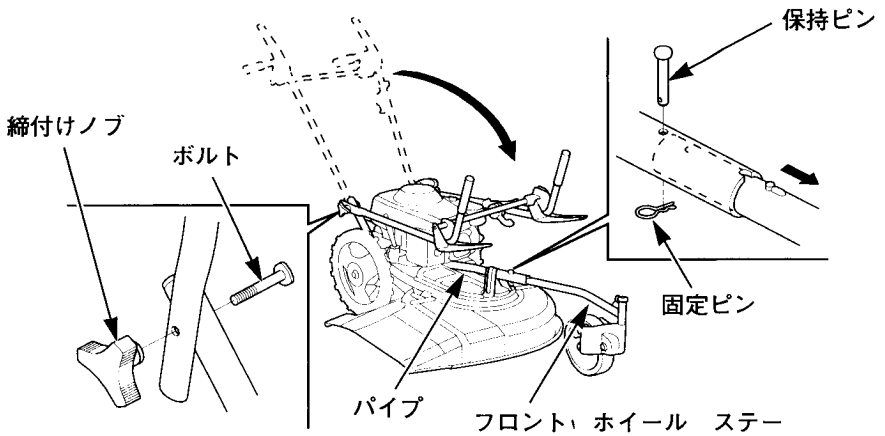

4．アユミ板は車に対し真直ぐ、しっかりとかけてください

5．アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。

6．ハンドルをしっかり保持し、十分に速度をおとしてゆっくり行ってください。

7．積載後、本機のエンジンを止め、UM2160は変速レバーを１速にいれ、走行クラッチ　レバーを走行の位置に固定してください。

8．燃料タンクとキャブレータの燃料を抜いてください。(56頁参照)
9．本機が移動しない程度に軽くロープで固定してください。
・フロント　ホイール　ステーの保持ピンと固定ピンを取外すとフロント　ホイール　ステーを本機から外すことができます。
・UM2160はハンドルの両側についている締付けノブとボルトを外すとハンドルを前に折りたたむことができます。




10. 本機を降ろす場合は走行クラッチ レバーを解除し、エンジンを始動しないでゆっくり行ってください。その場合後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

# 故障のときは

**まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。**

**始動しないときは次の点を確かめましょう。**

1．始動方法は取扱説明書通りですか？（26～28頁参照）
2．燃料はありますか？（17、18頁参照）
3．エンジンオイルは規定量ありますか？（19頁参照）
4．点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（48頁参照）

・　点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

**少し時間をおいてもう一度確かめましょう。**

# 主要諸元

| 名称（タイプ） | UM2160 (J) | UM2460 (J、JB) |
|---|---|---|
| 型式 | KZAG | KZAH |

エンジン

| | |
|---|---|
| 名称 | GXV160H2 |
| 形式 | 単気筒、4ストローク、OHV |
| 排気量 | 163 $cm^3$ |
| 内径×行程 | 68.0×45.0 mm |
| 点火時期 | 上死点前20° |
| 点火方式 | トランジスタ マグネト点火 |
| オイル容量 | 0.65 ℓ |
| 燃料タンク容量 | 1.6 ℓ |
| 点火プラグ | BPR5ES (NGK) W16EPR-U (DENSO) |

フレーム

| | | |
|---|---|---|
| 全長 | 1,770 mm | 1,780 mm |
| 全幅 | 760 mm | 840 mm |
| 全高 | 1,080 mm | |
| 刈幅 | 530 mm | 610 mm |
| 刈取り高さ | 15 mm、30 mm、50 mm、75 mm（4段階） | |
| 乾燥質量[重量] | 61 kg | J: 69 kg、JB: 73 kg |
| 全装備質量[重量] | 63 kg | J: 71 kg、JB: 75 kg |
| 変速段数 | 前進2段 | 無段変速 |
| 車速 | 1速: 0.5 m/秒、2速: 0.8 m/秒 | 0.4～1.0 m/秒 |

※諸元は予告なく変更することがあります。

# メ　モ

メ　モ

# メ　モ

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30VD8605
00X30-VD8-6052

Ⓢ Ⓝ 500.2009.09
© 2004 本田技研工業株式会社